第一章

# みんなでつくる防災

かつて経験したことがない大地震、そして、その傷も癒えぬ間に起きた豪雨災害に、町の人々は大きな傷を負い、深い悲しみを受けました。しかし、自然災害はいつ起こるか予測がつきません。どんな状況になっても暮らしを守り、後世に繋いでいくことが求められています。特に自然豊かな山都町で暮らしていくことは、自然と向き合い、自然と共存していくことに他なりません。今後さらに地球温暖化などの影響による「局地的な集中豪雨」、「台風の大型化」、また「南海トラフ巨大地震」なども予想される中で、自然災害に負けないまちづくり、暮らしづくりを進める必要があります。町では地震、豪雨被害を受けた年の１２月に「山都町復興計画」を、翌年には新しい「地域防災計画」を策定、災害に負けないまちづくりへの新たな道筋を作りました。町内の矢部小学校では熊本県内でも先進的といわれる防災教育を実践。またいくつかの自治振興区でも独自に防災への取り組みを進めています。

# 矢部小学校の取り組み

矢部小学校 校長

## 上杉 奈緒子さん

平成28年4月、熊本地震が起きる前に、
矢部小学校は防災教育推進校に認定されました。
その後、熊本地震、そして6月の豪雨を経験し、より高まった防災への意識。
防災を学ぶ授業や防災訓練など、さまざまな取り組みが行われてきました。
その内容について、校長・上杉奈緒子先生の話を交え、ご紹介します。

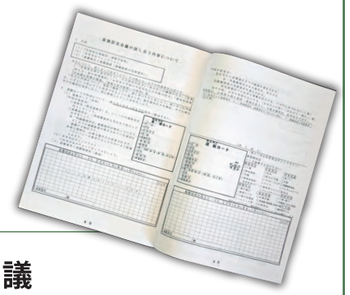
## 突然始まる防災訓練

毎月１回、行われています。特徴は、日時について児童やほとんどの先生たちに知らせていないこと。突然流れる「地震です。地震です。」という緊急地震速報に、児童たちは一斉に手で頭を守り、“だんごむしのポーズ”。その場にひざをついて丸くなります。この“だんごむしのポーズ”は、すぐできるようになるまで児童は何度も練習をしているそうです。なお、２年間の防災教育推進校認定期間が過ぎた今も、防災訓練は継続して実施されています。

地震が起きた時、近くに身を隠せる机やテーブルがない場合に、
取りたい姿勢が”だんごむしのポーズ”。両手で頭を守り、
正座をするようにその場にひざをつき、体を丸めて、だんごむし！

### 上杉校長のコメント

「災害はいつ、どこで、どんなことが起こるか分かりません。自分の命を守るために、自分で判断し、行動できるように日頃から訓練し、考えておくことが大切です。」と上杉校長。春は新入生が入学してくるので、まずは通常の避難訓練を行い、次第に内容をレベルアップしていくそう。「そうすることで新入生は上級生を見て学び、在校生は改めて思い出すことができます。それを繰り返して、全児童が急な災害訓練でも対応できるようになるのです。」と上杉校長は話します。



## 家族防災会議

夏休みの宿題として家族で行います。災害が起きた時に、避難する場所や方法を話し合うもので、家族の意識を統一させるとともに、コミュニケーションを円滑にするうえでも役立っています。

### 上杉校長のコメント

山都町では土砂崩れの危険を多くの住民が心配しています。「そこで、学校で保護者に、防災に関する講演も聞いていただいた後、家に帰って家族防災会議を開いていただきました。平成28年の熊本地震では、その後の豪雨の方が被害が大きかったと思います。地震で地面が揺れて崩れやすくなり、道路も封鎖されてしまったところが多くありました。身を守るためには、この地域独自の防災に取り組まなければいけません。命を守るためには、そこがまず第一歩。そこで保護者にも授業や講演、防災会議に参加してもらったのです」。実際に参加した保護者からは、「こういうことは続けていかないといけない」「今後も必要だ」という声があったそうです。なお、家族防災会議で話し合った内容は、専用のシートに記入するようになっています。職員がいろいろなところで使われているシートを参考に、独自で作ったものです。ちなみに、これは１回作れば終了というわけではありません。「兄弟が進学したり、就職したり。家族構成というのは毎年変わるので、その度に作り変える必要があると思います。また、毎年見直すことで意識は高まりますし、コミュニケーションのきっかけにもなります」と上杉校長は意義を説明します。

## 防災に関する授業

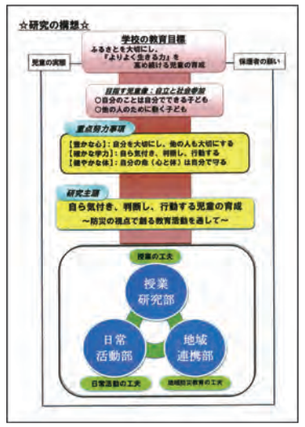
ある日の授業では、防災マップを作成しました。まずは児童が地域を回り、撮影してきた危険な場所の写真を見ながら、「どんな危険があるか」「どんな行動をしたらよいか」をグループごとに話し合い、発表。その後、発表された意見と写真をもとに自分たちが住む地域の防災マップを完成させます。他に防災新聞を作成したり、校内の展示コーナーの一角に「防災コーナー」を設けて防災グッズを展示したりと、さまざまな取り組みも行われました。

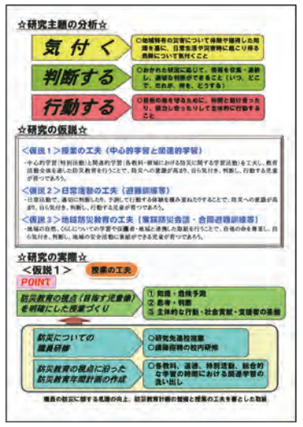
### 上杉校長のコメント

防災新聞の制作は残念ながら２年間で終了。しかしながら、制作した新聞は残っており、防災壁新聞は現在も矢部小学校に保管してあり、折に触れて紹介していくそうです。「全てを継続していくことは難しいですが、無理なくできることを探し、いつも防災の意識を持ち続けるための取り組みをこれからも行っていきたいと思います。」と上杉校長は話します。

先生が制作を担当して、定期的に発行していた防災新聞「つなぐ」

防災教育研究推進校に指定されて２年目に、研究発表会を行いました。
その時にまとめた資料がこちら。本校の防災への考え方のベースになっています。



**まとめ**

土砂災害が多いという地域の特徴を踏まえ、小学校が率先して行っている防災への取り組み。「大切なのは、自分で自分の命を守ること」をテーマに、自分で判断し、行動できる子どもを育てるため、さまざまな工夫を凝らした活動が行われています。さらに、子どもだけでなく大人も巻き込むことは、地域全体の防災力を高めることにつながっています。

# 山都町総合防災訓練及び地域別防災会議〈蘇陽地域〉

平成30年11月4日（日）　於：蘇陽保健センター

平成28年は熊本地震、豪雨被害と災害が相次いだ山都町。
その後、全国各地で大雨による土砂災害や浸水被害が発生し、甚大な被害をもたらしました。
これを教訓とし安心安全なまちづくりをするために各区長と消防団、役場の防災担当者、
町民らが集まり防災訓練及び防災会議を開きました。
会議では災害薬事コーディネーター、社会福祉協議会蘇陽支部長、
消防団員がそれぞれの立場から見た現状と課題を語り、続いて町民同士で地域連携から考える
防災の在り方や避難の心得について話し合いました。

## 災害薬事コーディネーターからみた現状と課題

災害薬事コーディネーター
まこと薬局　木山　誠さん

熊本地震では、DMAT（災害医療チーム）とともに益城町総合体育館で救護支援にあたりました。そのとき必要だと感じたのが難病や透析治療、感染症、妊婦、乳幼児など支援を求める人たちの情報です。例えば、各避難所で避難者の情報を把握している管理人などがいて情報共有ができれば、救助支援をスムーズに行えます。また、おくすり手帳を常に携行していると、有事の際も服薬情報を得やすくなります。山都町で日中に災害が発生した場合、消防団の若い世代は町外勤務で不在にしていることが多く、速やかな避難援助は期待できません。町民一人一人が災害に備え、助け合うシステムをどう構築するかが課題です。

## 社会福祉協議会からみた現状と課題

山都町社会福祉協議会　蘇陽支部長

### 山村 哲也さん

熊本地震や豪雨災害を経験し、私たちはいち早い避難や災害弱者の見守りが重要であることを痛感しました。現在、蘇陽地区だけで1人暮らし世帯は200以上もあります。行政のサポートには限界があり、住民には自助、共助の意識と行動が求められています。そのために平時の取り組みとして「地域を知る」「災害のメカニズムを知る」「支援が必要な人と支援できる人、それぞれの情報を把握する」といったことが必要だと、今回の災害で身をもって実感しました。

## 消防団からみた現状と課題

山都町消防団　第13分団長

### 興梠 幸司さん

熊本地震では滝下地区で落石があり道が塞がれました。災害対策本部から消防団で避難誘導してほしいとの依頼があり、孤立集落の住民安否確認、避難誘導を行いました。ただ、それまで火事を想定した訓練は実施していましたが、災害時の想定、対策はできていなかったため、避難誘導は難航し、日頃の情報収集や連携がいかに大事かを痛感しました。町内には高齢者が多く、早急に大規模な災害発生時の対策を立てる必要があります。

### 参加者の声

○馬見原自治振興区には防災組織がないのでこれから360世帯で立ち上げたい。
○意義ある会議だった。自主防災の重要性、危険地域の周知などができた。
○いい会議だった。1年に1度、定期的に開催してほしい。
○区長や分団長には普段会う機会がないので、互いの意見を聞きながら近隣住民で話し合いができたのがよかった。
○町内住民の中には災害時、消防団の呼びかけに応じない人もいる。近隣住民で連携して災害に備えたい。
○災害時は女性に配慮した避難所運営が求められる。女性用トイレを多く設置し、生理用品は女性が配布するなど衛生面の確保、プライバシーや防犯対策など、もっと女性の視点を取り入れてほしい。
○住民の中には避難勧告と避難指示の違いがわからない人もいる。災害時、勧告の段階で避難所に行く人もおり、避難所開設をいかにスムーズに行うかについても話し合う必要がある。

### おわりに

会議では、地域住民同士が協力し合う“共助”、自ら防災に取り組み、日常的に災害に備える“自助”という2つのキーワードが改めて浮き彫りになりました。地域の高齢化が進む中では今後ますます共助の果たす役割が増大することが予想され、災害時、高齢者や災害弱者を地域ぐるみで支援することが重要な課題となっています。一方で地域、近隣での助け合い、支え合いが山都町では根付いています。地域の人と人とのつながりという町の財産を活かし、地域で助け合いを基盤に災害に備える体制づくりが必要であることが確認されました。

自主防災組織の法被に身を包む藤本さん

下矢部西部区長・自治振興区会長

## 藤本　正明さん

下矢部西部地区は、平成28年の熊本地震による被害、そして同年6月に発生した豪雨で大きな被害を受けた地区。ここは山から流れ出る河川がいくつもの谷を刻んでいる地形により、これまでもたびたび水害に見舞われており、昭和63年の5.3水害では、土石流が発生するなど大きな被害が起きています。今回の熊本地震・豪雨発生当時、下矢部西部地区の区長代理を務めていた藤本さんに、地区を挙げての自治防災、今後の地区と住民の安全のための活動についてお聞きしました。

# 地区が抱える課題に合わせて防災・災害対策に取り組むことが大切

下矢部西部地区には全部で６つの集落があり、149世帯が暮らしています。熊本地震の被害はそれほど大きくありませんでしたが、６月の豪雨の時は大量の雨水が押し寄せ、道路が水に浸かり通行できない状態がいたる所で発生しました。

特に、御船町に近い葛原という集落は被害が大きく、川の氾濫で道は寸断され、家自体が浸水被害の危険にさらされた世帯も多数ありました。その東側の三ヶ（さんが）集落も道が寸断され集落全体が孤立。柚木（ゆのき）集落でも川が氾濫し、近隣の方々は避難所に指定されている下矢部西部地区農村環境改善センターへ避難。幸いなことに人的な被害こそなかったものの道路や河川、農地が崩れたり、ライフラインや仕事に大きな影響が発生しました。

## 避難したくても できない環境も

今回の災害で、この地区では避難所に行かず、自宅に留まった人たちもいました。というのも、地区内は悪路が多く、一度避難所等へ行ったら、大雨で道が寸断され、家に帰れなくなる恐れがあるからです。そのため避難せずに家にいるという選択をする人がいました。道を整備して、移動しやすい環境を整えていくことは、下矢部西部地区の今後の大きな課題のひとつです。

この地区は、昭和63年には大雨で土石流が発生し、家が何軒もつぶれてしまうという大きな水害に見舞われているほか、何度も水害に襲われているため、地区の住民は崖が崩れやすい場所、川が氾濫しやすい場所など、これまでの経験でおおよそ分かっている人もいます。ただ、これからは、地区のみんな、子どもでも誰もがわかるように、危険な場所を地図に落とし込み、どこに逃げればいいのか、避難場所まで安全に行くためにはどこを通ればいいのか、など、これまでの経験を活かして、住民みんなに伝えていく必要があると思います。

## 地区を挙げて避難訓練

熊本地震後から始めたことといえば、避難訓練です。例えば、大きな自然災害で地区が孤立したらどうすればいいのか。住民みんなで知って、覚えておく必要がありますので、地震・豪雨被害の翌年、平成29年２月には、地区全体の避難訓練を行いました。この日は消防の協力を得て、いざ危険が迫ったとき、道が寸断されて孤立した場合に防災ヘリ等での救出を想定して、旧下矢部西部小学校のグラウンドへ消防ヘリに来てもらいました。訓練には地区のほとんどの世帯が参加。以前の5.3災害の記憶が残っている人も多く、度重なる自然災害に防災意識も高くなっているようです。

防災訓練に次に取り組んだのは、地区内での連絡網の整備。もともと各集落で独自のものを作っていましたが、携帯電話番号、世帯人数、車の有無などが把握できる統一した連絡網づくりに平成29年から取り組んでいます。この地区も住民の高齢化が進んでおり、災害が起きた時の安否確認をはじめ、避難所までの交通手段を確保できない人への支援など、まずは住民同士で連絡を取り合うことが重要になってきます。

## 自分たちで暮らしを守る

そして、自主防災組織も立ち上げました。地区の各集落ごとに役員１名を任命し、40～70歳までの住民に参加してもらっています。

防災組織を立ち上げた理由は、消防団の人員が年々少なくなってきたこと、そして団員の多くが会社勤めで、山都町内に住んでいなかったり、日中は仕事で町外にいるなどで、なかなか人手を確保できなかったからです。

平成28年６月の豪雨の影響で道路の一部が崩落し、寸断された道路。現在、復旧工事は完了している

小学校のグラウンドへ消防ヘリに来てもらい、本番さながらの訓練を実施

もちろん消防団はいざという時に大きな力になりますが、仕事の都合で消防団員のメンバーがいない日中なども、災害等が発生したときに地区のみんなで力を合わせて、助け合う、支えあう体制をつくることがいざという時のために大切です。

道路の整備、危険河川の改修などは役場の力で行なっていただく必要がありますが、まずは、地区内で助け合い、支えあうことが第一です。この地区の状況を見つめ、課題と向き合いながら、これからも対策を考え、取り組んで行きたいと思います。

昭和63年5月3日　5.3災害（災害状況及び復旧状況の様子）

## 花上地区の取り組み

自然豊かな花上地区を前に、話を聞かせてくれた有働さん

花上区長・自治振興区会長

### 有働 光揮さん

宮崎県境がほど近い花上地区は、熊本地震で大きな揺れに見舞われたものの幸いなことに地区内で大きな被害はなく、豪雨被害でも倒木があった程度。でも自然災害に対する住民のみなさんの防災意識は高く、花上地区緊急ヘリポートの整備、防災用品の整備、年1回の防災訓練実施など、災害対策を積極的に進めています。平成27年に花上地区長に就任。自治振興区会長も担う有働光揮さんに、地区の取り組みについてお聞きしました。

花上地区緊急ヘリポート。住民自ら木を伐採し、土を削り、整地して完成

花上地区緊急ヘリポートの敷地内には、完成までの経緯などが記された案内板が設置されています

花上地区には現在、46世帯120名ほどの住民が暮らしています。一人世帯が多く、若者が少ないのが現状です。

熊本地震では１箇所で岩が落ちた程度で、家が壊れたり、住民が怪我をしたりという大きな被害はありませんでした。揺れ自体は激しかったので、1、2日ほど役場に避難された住民もいましたが、それも10人も満たないぐらい。水も電気も大丈夫でしたので、多くの方が自宅で過ごしていました。

６月の豪雨も、少し倒木があった程度。道路に倒れていた木は、山仕事をしている仲間を呼んで、チェーンソーで切って片づけるなど、自分たちで対処しました。被害が大きければ行政や業者に頼まないといけませんが、これまでもちょっと雪が降ったら住民が除雪作業をするなど、自分たちでできることは積極的に行っていたので、今回もすぐに対応することができました。この地域は役場から離れているので、役場に連絡するより、自分たちで行った方が早いのです。

### 自分たちの手で緊急ヘリポートを整備

直接の被害は少なかったものの、今回の熊本地震や豪雨被害では大いに考えさせられました。この地区は山あいにあり、役場や病院などの公共施設とも距離があります。集落への道は谷あいを通り道幅も狭いです。今回の地震や豪雨被害で町の他の地区で発生したような土砂崩れや路肩崩壊などが発生すると、集落が孤立してしまう恐れがあります。

道が通れなくなると、ライフラインが途絶えるだけでなく、けが人や具合が悪くなった人を病院に運ぶこともできません。自然災害はいつ起こるかわかりませんので、有事の際はヘリで救援に来てもらえるように、着陸できる場所を地区内に作ることを、住民のみなさんが発案し、中神働（なかしんどう）集落の住民が主体となってヘリポート整備に取り組みました。

森の木を伐採して切り開くことからはじめ、ヘリコプターが着陸できるように整地するところまで、その作業のほとんどを住民が手がけ、平成29年に完成しました。

### 防災用品も地区で購入、いざという時に備える

そのほか、地区の防災活動として取り組んだのが、防災のための備品を揃えたことです。道路が寸断されて孤立したとき、ヘリコプターによる救援活動が到着するまでの準備もしておかなければいけないからです。停電したときのための発電機や、バルーン照明、避難用のテント、ヘルメット、あるいは炊き出し用の大鍋などの防災用品一式を、宝くじのコミュニティ事業の予算を活用させていただいて、平成29年12月までに揃えました。

### 地区の親睦を兼ねながら防災訓練

さらに、平成28年から４月の花見に合わせて防災訓練を行っています。災害が発生したときの連絡網の確認や避難所までの避難経路の確認、あるいは防災用品の使い方を覚えてもらったり、毎年、訓練を行なって、体で覚えてもらうことが大切です。

ちなみに花見と防災訓練を一緒に行っているのは、何かしら楽しみがあった方がいいと思ったからです。地区の住民みんなが揃って顔を合わせる機会というのは、なかなかありませんので、地区の親睦・交流を兼ねて防災意識を高めてもらういい機会だと思っています。これからも続けていきたいですね。

第二章

# その時、あなたは

## ～アンケート結果～

もう一度あの揺れが襲ってきたら、

豪雨で水害･土砂災害の危険が迫ってきたら、

何を、どうしますか？

あわてずに安全な行動をとれますか？

常日頃からの備え、心構えはできていますか？

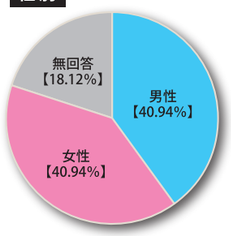
平成３０年１１月に実施したアンケート結果から、

町民のいまの防災意識を紐解いていきます。

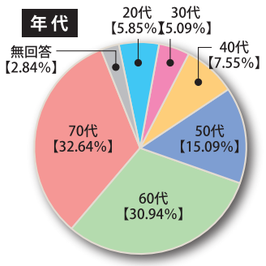
### 災害に関するアンケート（調査票）

熊本地震、豪雨被害の時、町民の皆さまは、どのように対処されたのか、
あるいは、２つの自然災害の経験を経て、いざという時への備え、
心構えはどのように変化したのか、町民の皆さまへのアンケートを行いました。

**性別**




**年代**




調査時期：平成30年11月12日（月）～11月30日（金）
対 象 者：町内在住の満20歳以上の男女 1,000名（無作為抽出）
回答者数：530人（回答率 53.0%）

## 平成28年熊本地震について

**地震発生時、その後の情報収集の状況などについてお尋ねします。**

### 問1 ご家族との連絡・安否に関する情報をどこから入手しましたか。

（複数回答可）

| | 選択肢 | 件数 | 割合 |
|---|---|---|---|
| 1 | 近くにいた | 319 | 60.2% |
| 2 | 固定電話 | 65 | 12.3% |
| 3 | 携帯電話等の通話 | 281 | 53.0% |
| 4 | 通信事業者等の音声伝言サービス | 15 | 2.8% |
| 5 | SNS（フェイスブック・LINE等） | 63 | 11.9% |
| 6 | 知人や入居施設等を介して | 14 | 2.6% |
| 7 | その他 | 11 | 2.1% |
| 8 | 無回答 | 11 | 2.1% |

複数回答のため回答者割合の合計値が100%を超える。（回答者数530人）

**その他の回答**

・近所の人と話した　・会社からの連絡
・テレビ　・病院入院中

**▶地震直後の家族との連絡方法は、携帯電話が主であるが、SNSでの連絡をとりあった人も1割以上いた**

### 問2 地震直後の地震に関する情報をどこから入手しましたか。

（複数回答可）

| | 選択肢 | 件数 | 割合 |
|---|---|---|---|
| 1 | ラジオ | 116 | 21.9% |
| 2 | テレビ | 455 | 85.8% |
| 3 | 家族からの電話・メール | 131 | 24.7% |
| 4 | 近所の方や地域の方から | 56 | 10.6% |
| 5 | 仕事先 | 27 | 5.1% |
| 6 | 県ホームページ | 10 | 1.9% |
| 7 | 町ホームページ | 4 | 0.8% |
| 8 | Yahoo!!などの民間のホームページ | 26 | 4.9% |
| 9 | 山都町防災情報メール | 120 | 22.6% |
| 10 | 防災行政無線 | 94 | 17.7% |
| 11 | SNS（フェイスブック・LINE等） | 62 | 11.7% |
| 12 | 情報を入手していない | 5 | 0.9% |
| 13 | その他 | 13 | 2.5% |
| 14 | 無回答 | 4 | 0.8% |

複数回答のため回答者割合の合計値が100%を超える。（回答者数530人）

**その他の回答**

・携帯電話　・東京の親戚
・エリアメール

**▶地震直後の地震に関する情報入手手段は、テレビ、家族からの電話・メール、町防災無線、ラジオの順になっている**

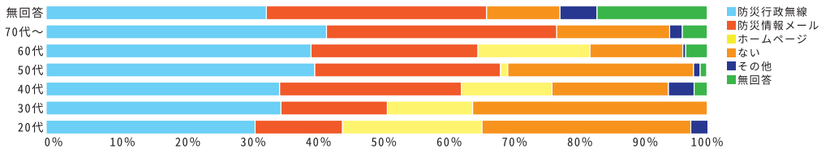
## 問３ 地震で利用した町の防災情報源はありますか。
（複数回答可）

**全　体**

| | 選択肢 | 件数 | 割合 |
|---|---|---|---|
| 1 | 防災行政無線 | 272 | 51.3% |
| 2 | 山都町防災情報メール | 191 | 36.0% |
| 3 | ホームページ | 24 | 4.5% |
| 4 | ない | 131 | 24.7% |
| 5 | その他 | 10 | 1.9% |
| 6 | 無回答 | 21 | 4.0% |

複数回答のため回答者割合の合計値が100%を超える。（回答者数530人）

**年代別**




| | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代 | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 防災行政無線 | 31.6% | 35.5% | 35.5% | 40.6% | 47.3% | 42.4% | 33.3% |
| 防災情報メール | 13.2% | 16.1% | 27.5% | 28.1% | 29.8% | 34.8% | 33.3% |
| ホームページ | 21.1% | 12.9% | 13.7% | 1.0% | 2.0% | 0.0% | 0.0% |
| ない | 31.6% | 35.5% | 17.6% | 28.1% | 16.6% | 17.1% | 11.1% |
| その他 | 2.6% | 0.0% | 3.9% | 1.0% | 0.5% | 1.9% | 5.6% |
| 無回答 | 0.0% | 0.0% | 2.0% | 1.0% | 3.9% | 3.8% | 16.7% |

（回答者数　530人）

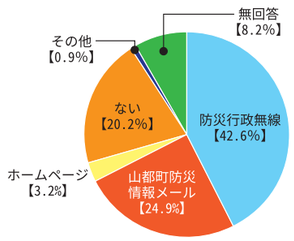
**その他の回答**　・テレビの市町村の防災情報

## 問４ 問３で利用した情報源の中で最も利用頻度が高いものを１つ選んでください。

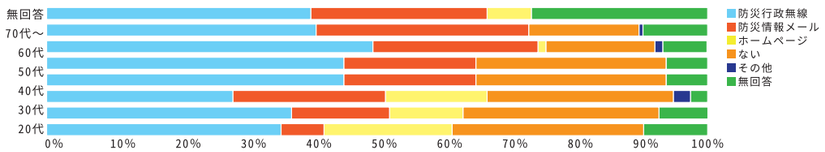
**全　体**

| | 選択肢 | 件数 | 割合 |
|---|---|---|---|
| 1 | 防災行政無線 | 226 | 42.6% |
| 2 | 山都町防災情報メール | 132 | 24.9% |
| 3 | ホームページ | 17 | 3.2% |
| 4 | ない | 107 | 20.2% |
| 5 | その他 | 5 | 0.9% |
| 6 | 無回答 | 43 | 8.2% |
| | 回答数 | 530 | 100% |

（回答者数　530人）




**年代別**




| | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代 | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 防災行政無線 | 35.5% | 37.0% | 28.2% | 45.0% | 49.4% | 40.8% | 40.0% |
| 防災情報メール | 6.5% | 14.8% | 23.1% | 20.0% | 25.0% | 32.2% | 26.7% |
| ホームページ | 19.4% | 11.1% | 15.4% | 0.0% | 1.2% | 0.0% | 0.0% |
| ない | 29.0% | 29.6% | 28.2% | 28.8% | 16.5% | 16.7% | 0.0% |
| その他 | 0.0% | 0.0% | 2.6% | 0.0% | 1.2% | 0.6% | 6.7% |
| 無回答 | 9.6% | 7.5% | 2.5% | 6.2% | 6.7% | 9.7% | 26.6% |

**その他の回答**　・テレビの市町村の防災情報

**▶地震で利用した町の防災情報は、防災無線、防災情報メールの順。**
**年齢が高い層では防災行政無線の利用が多く、若い層では３割程度の人が町の防災情報を活用しなかった**

## 問５ 自宅や避難所で生活する中で、特に必要と感じた情報はどれですか。
（複数回答可）

| | 選択肢 | 件数 | 割合 |
|---|---|---|---|
| 1 | 知人や家族の安否情報 | 300 | 56.6% |
| 2 | 余震などの地震の情報 | 301 | 56.8% |
| 3 | 避難所の開設・運営に関する情報 | 135 | 25.5% |
| 4 | 食料など支援物資の提供情報 | 186 | 35.1% |
| 5 | 電気・上水道・通信関係の復旧（見込み）情報 | 277 | 52.3% |
| 6 | 教育に関する情報 | 19 | 3.6% |
| 7 | 天気・気温・警報などの気象情報 | 100 | 18.9% |
| 8 | スーパーやガソリンスタンド等の営業情報 | 116 | 21.9% |
| 9 | 道路の通行規制情報 | 356 | 67.2% |
| 10 | 公共交通機関の復旧情報 | 87 | 16.4% |
| 11 | り災証明の発行など、生活再建に関する情報 | 88 | 16.6% |
| 12 | 医療機関の診療情報 | 97 | 18.3% |
| 13 | 家屋の修理・解体に関する情報 | 90 | 17.0% |
| 14 | 仮設住宅に関する情報 | 18 | 3.4% |
| 15 | 資金や貸付金に関する情報 | 37 | 7.0% |
| 16 | その他 | 5 | 0.9% |
| 17 | 無回答 | 16 | 3.0% |

複数回答のため回答者割合の合計値が100%を超える。（回答者数530人）

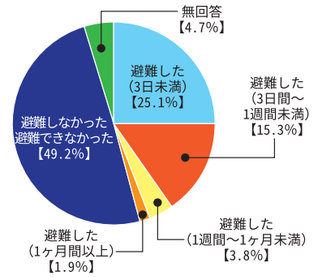
**▶特に必要と感じた情報は、道路の通行規制情報、知人や家族の安否情報、余震などの地震の情報、電気・上水道、通信関係の復旧見込み情報など**

## 地震発生後の避難の状況などについてお尋ねします。

## 問６ 地震（前震の揺れ）以降、あなたは避難（夜間のみも含む）しましたか。
（○は１つだけ）

| | 選択肢 | 件数 | 割合 |
|---|---|---|---|
| 1 | 避難した（３日未満） | 133 | 25.1% |
| 2 | 避難した（３日間～１週間未満） | 81 | 15.3% |
| 3 | 避難した（１週間～１ヶ月未満） | 20 | 3.8% |
| 4 | 避難した（１ヶ月間以上） | 10 | 1.9% |
| 5 | 避難しなかった・避難できなかった | 261 | 49.2% |
| 6 | 無回答 | 25 | 4.7% |
| | 回答数 | 530 | 100% |

（回答者数　530人）



## 問7 問６で「避難した」と回答した方にお尋ねします。避難した理由は何ですか。
（複数回答可）

| | 選択肢 | 件数 | 割合 |
|---|---|---|---|
| 1 | まだ、余震が続くと思ったから | 212 | 78.8% |
| 2 | 自宅建物が壊れ、中で生活することができなかったから | 28 | 10.4% |
| 3 | 停電や断水など、自宅で生活するのが不安な状況だったから | 28 | 10.4% |
| 4 | 集落や家族内でその場所に避難することを決めていたから | 25 | 9.3% |
| 5 | 消防や町職員などに避難するよう呼びかけられたから | 14 | 5.2% |
| 6 | 地域の人に避難するよう呼びかけられたから | 23 | 8.6% |
| 7 | その他 | 16 | 5.9% |
| 8 | 無回答 | 24 | 8.9% |

複数回答のため回答者割合の合計値が100%を超える。（回答者数530人）

**その他の回答**

・物の多い家の中にいたら危ないと思ったから
・子どもが家で寝たくないと言ったので
・自宅１階部分の複数の梁に亀裂が入り、怖くて避難
・地震の後、雨が降って家の裏が崖崩れがした、柱が２本折れて土砂が家の中まで入ってきた
・家が古く、余震で壊れるかもと思ったから
・土砂くずれの心配があったから
・家だと危険かもしれないと思った
・家が古く壊れるかもしれないと思ったから
・アパートに一人暮らしだが、１階でもあり危険だから又、一人では不安もあるため
・老人と同居してるため
・家の中で寝るのが心配だったから。夜のみ車中泊
・家が古いので壊れる心配があった
・家のガラス戸など、揺れるたびに音がして怖かった。ガラス戸が30枚以上ある

**▶半数近くの人が、地震後に避難しており、避難の理由のほとんどは「まだ余震が続くと思ったから」**

## 問8 問６で「避難した」と回答した方にお尋ねします。誰と一緒に避難しましたか。（複数回答可）

| | 選択肢 | 件数 | 割合 |
|---|---|---|---|
| 1 | ひとりで | 21 | 7.8% |
| 2 | 家族・親族と | 213 | 79.2% |
| 3 | ペットと | 17 | 6.3% |
| 4 | 知人と | 5 | 1.9% |
| 5 | 近所の方と | 45 | 16.7% |
| 6 | その他 | 1 | 0.4% |
| 7 | 無回答 | 25 | 9.3% |

複数回答のため回答者割合の合計値が100%を超える。（回答者数 269人）

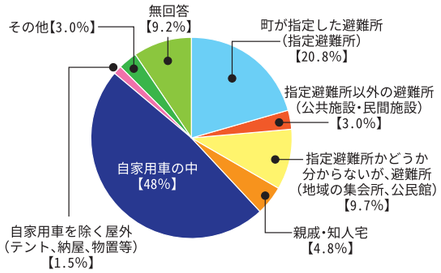
**その他の回答**

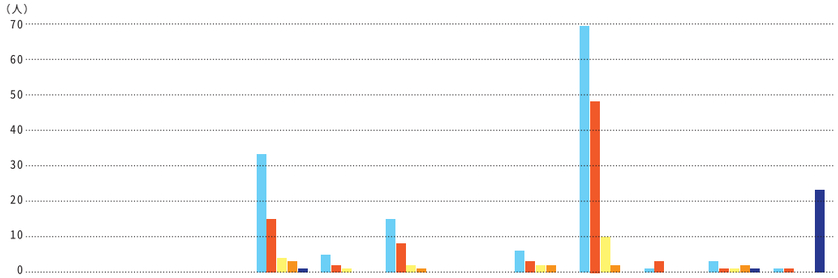
・地域全体で避難した（１日間）

## 問9 問６で「避難した」と回答した方にお尋ねします。あなたが避難した場所はどこですか。［複数の避難場所にいた方は、一番長く居た場所］（○は１つだけ）

| | 選択肢 | 件数 | 割合 |
|---|---|---|---|
| 1 | 町が指定した避難所（指定避難所） | 56 | 20.8% |
| 2 | 指定避難所以外の避難所（公共施設・民間施設） | 8 | 3.0% |
| 3 | 指定避難所かどうか分からないが、避難所（地域の集会所、公民館） | 26 | 9.7% |
| 4 | 福祉避難所 | 0 | 0.0% |
| 5 | 親戚・知人宅 | 13 | 4.8% |
| 6 | 自家用車の中 | 129 | 48.0% |
| 7 | 自家用車を除く屋外（テント、納屋、物置等） | 4 | 1.5% |
| 8 | その他 | 8 | 3.0% |
| 9 | 無回答 | 25 | 9.2% |
| | 回答数 | 269 | 100% |

（回答者数 269人）




| | 町指定 | 指定以外 | 指定か不明 | 福祉避難所 | 親戚・知人宅 | 自家用車の中 | 屋外 | その他 | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 避難した（３日未満） | 33 | 5 | 15 | 0 | 6 | 69 | 1 | 3 | 1 |
| 避難した（３日間～１週間未満） | 15 | 2 | 8 | 0 | 3 | 48 | 3 | 1 | 1 |
| 避難した（１週間～１ヶ月未満） | 4 | 1 | 2 | 0 | 2 | 10 | 0 | 1 | 0 |
| 避難した（１ヶ月間以上） | 3 | 0 | 1 | 0 | 2 | 2 | 0 | 2 | 0 |
| 無回答 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 23 |

**その他の回答**

・実家
・役場に１０日間
・母の家
・別棟の家
・子ども宅
・保育園

## 問10 問６で「避難した」と回答した方にお尋ねします。長く避難した場所を選択した理由を教えてください。（複数回答可）

| | 選択肢 | 件数 | 割合 |
|---|---|---|---|
| 1 | そこに避難することが、安全だと思ったから | 179 | 66.5% |
| 2 | 情報が集まってくるから | 27 | 10.0% |
| 3 | 家族・親戚等がいるから | 51 | 19.0% |
| 4 | プライバシーの問題等により、避難所に避難をしたくなかったから | 20 | 7.4% |
| 5 | 家族やペットにより、避難所に避難をすることが困難であったから | 9 | 3.3% |
| 6 | 避難所までの移動が困難だったから | 12 | 4.5% |
| 7 | 緊急時の避難場所を家族で決めていたから | 9 | 3.3% |
| 8 | 避難しようとした施設に避難者が殺到して避難できないと思ったから | 8 | 3.0% |
| 9 | 近隣の避難所がわからなかったから | 6 | 2.2% |
| 10 | その他 | 10 | 3.7% |
| 11 | 無回答 | 44 | 16.4% |

複数回答のため回答者割合の合計値が100%を超える。（回答者数 269人）

**その他の回答**

・家にいたら危険と感じた
・昼は仕事していて夜のみの避難だった
・家はどうもなかった為、直後の夜間のみ
・知人も一緒だったから
・家から一番近くだった
・自宅の庭で、家族だけでいた方がストレスもなく安心できると思った
・広い場所を求めた
・近かったから。車で2.3分
・足の不自由な老母がいたから
・避難所は車があまり置けないので（歩いては遠いので）
・昼は家にいて夜だけ車で生活しました。私達いなか者はプライバシーが気になり車の中ですごしました
・近くの避難所は、満車だった

## 問11 問６で「避難した」と回答した方にお尋ねします。避難をやめるきっかけとなったのは何ですか。（複数回答可）

| | 選択肢 | 件数 | 割合 |
|---|---|---|---|
| 1 | 余震の頻度が少なくなったから | 208 | 77.3% |
| 2 | 仮設住宅（民間賃貸を含む）が決まったから | 4 | 1.5% |
| 3 | 自宅の応急処理や修理が済んだから | 16 | 5.9% |
| 4 | 親戚や知人宅などに移ることになったから | 3 | 1.1% |
| 5 | 電気水道などのライフラインが復旧したから | 36 | 13.4% |
| 6 | 避難所の生活が自分や家族に難しかったから | 16 | 5.9% |
| 7 | 避難所が閉鎖されたから | 3 | 1.1% |
| 8 | 病気等の治療のため | 2 | 0.7% |
| 9 | その他 | 15 | 5.6% |
| 10 | 無回答 | 27 | 10.0% |

複数回答のため回答者割合の合計値が100%を超える。（回答者数 269人）

**その他の回答**

・家に被害がなかった
・新しいアパートが見つかったから
・地域の被害が殆どなかったから（住居の）、「千寿苑に」と言われても道路不通が不安
・車内泊がきつくなり始めていたから
・家に帰りたかったから
・家でも安全だと思ったから
・ゆっくり寝られない為
・水が大変ありがたかったです
・ペットがいるので
・９０才の母が避難場所を嫌がった為
・自分が自宅に戻ったから

**▶避難場所は自家用車の中がもっとも多く、次が町が指定した避難場所。**
**避難をやめるきっかけは、「余震の頻度が少なくなったから」という回答がもっとも多かった**

## 問12 問９で「自家用車の中」と回答した方にお尋ねします。自家用車の中に避難した理由は何ですか。（複数回答可）

| | 選択肢 | 件数 | 割合 |
|---|---|---|---|
| 1 | 余震が続き、車が一番安全と思ったため | 109 | 84.5% |
| 2 | 小さい子どもや体が不自由な家族がいたから | 19 | 14.7% |
| 3 | プライバシーの問題により、避難所より車中避難の方がよいと思ったから | 35 | 27.1% |
| 4 | ペットがいたから | 11 | 8.5% |
| 5 | 避難所が満員で入れなかったから | 1 | 0.8% |
| 6 | 他に近隣で避難できる場所がなかったから | 12 | 9.3% |
| 7 | 避難しようとした施設に避難者が殺到して避難できないと思ったから | 3 | 2.3% |
| 8 | 一度は避難所に避難したが、避難した避難所が閉鎖されたから | 1 | 0.8% |
| 9 | 一度は避難所に避難したが避難所に居づらくなったから | 0 | 0.0% |
| 10 | その他 | 10 | 7.8% |
| 11 | 無回答 | 24 | 18.6% |

複数回答のため回答者割合の合計値が100%を超える。（回答者数 129人）

**その他の回答**

・家の中が危ないと思った
・トイレを自宅に帰って用をたした
・すぐに移動ができるから
・夜間のみ避難、近隣の方とＪＡ施設駐車場に於いて
・へき地なので
・部落の空地

**▶自家用車に避難した理由は「車が一番安全と思った」がもっとも多く、次いで「プライバシーの問題」**

## 問13 問６で「避難しなかった・避難できなかった」と回答した方にお尋ねします。避難しなかった・できなかった理由は何ですか。（複数回答可）

| | 選択肢 | 件数 | 割合 |
|---|---|---|---|
| 1 | 自宅が安全で、避難する必要がないと思ったから | 246 | 94.3% |
| 2 | どこに避難すればよいのか分からなかったから | 14 | 5.4% |
| 3 | 乳幼児・病人や体が不自由な家族が居て、避難するのが困難だったから | 12 | 4.6% |
| 4 | 避難所までの移動が困難だったから | 13 | 5.0% |
| 5 | 避難しようとした施設に避難者が殺到して避難できないと思ったから | 8 | 3.1% |
| 6 | 避難しようとした施設が損壊しており、危ないと思ったから | 2 | 0.8% |
| 7 | ペットがいたから | 14 | 5.4% |
| 8 | その他 | 16 | 6.1% |
| 9 | 無回答 | 20 | 7.7% |

複数回答のため回答者割合の合計値が100%を超える。（回答者数 261人）

**その他の回答**

・避難経路がわからないため
・子供が起きらず、そのまま眠っていたから
・家から外に出た
・高齢者がいた
・すぐ近くに学校があるけど避難場所になっていない。
あの様な時は近くの安全な場所を提供してほしい
・避難所の情報は何もなかった（満員などの）（避難所に行った近所の人が次々と帰ってきた為、避難所がいっぱいになったのだと思った）
・高齢者がいて家を出たがらなかった
・牛を養っているため
・父が入院中で、付き添っていた
・農業である為、避難は無理です
・本震があったその日は車中泊した、その後は自宅にいた
・仕事上、住民対応のため
・雨、川の増水の場合は高台の公民館へ毎度避難

**▶避難しなかった理由は、「自宅が安全で避難の必要がない」と思った人が大半を占めるが、**
**「どこに避難すればいいかわからなかった人」が5.4%、「避難所までの移動が困難だった人」が5.0%いる**

# 災害全般について

**災害の備えについてお尋ねします。**

## 問14 事前に災害の備えとして何をしていますか。

（複数回答可）

| | 選択肢 | 件数 | 割合 |
|---|---|---|---|
| 1 | 食糧・飲料水の備蓄 | 254 | 47.9% |
| 2 | 避難場所、経路の確認 | 146 | 27.5% |
| 3 | お住まいの地区の危険地域（ハザードマップ）の確認 | 85 | 16.0% |
| 4 | 近隣の指定避難所までの避難経路の検討 | 31 | 5.8% |
| 5 | 山都町防災情報メールの登録 | 67 | 12.6% |
| 6 | 風呂に水を溜める | 106 | 20.0% |
| 7 | 家族との連絡方法の確認 | 184 | 34.7% |
| 8 | 家具の固定 | 107 | 20.2% |
| 9 | 家の耐震補強 | 41 | 7.7% |
| 10 | 非常用持出品の準備 | 148 | 27.9% |
| 11 | 地域の自主防災活動や消防団への参加 | 42 | 7.9% |
| 12 | その他 | 18 | 3.4% |
| 13 | 無回答 | 60 | 11.3% |

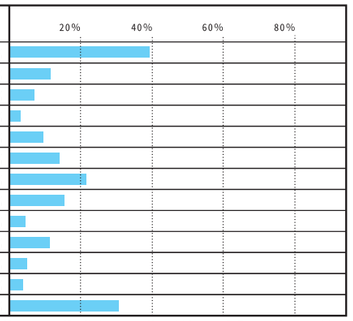
複数回答のため回答者割合の合計値が100%を超える。（回答者数 530人）

**その他の回答**

・特に何もしていない
・ポリタンク・ペットボトルへの水の備蓄
・車に上着とかひざ掛けとか必要なものを入れておく
・車の点検

## 問15 問14のうち、役に立ったことはありますか。
（複数回答可）

| | 選択肢 | 件数 | 割合 |
|---|---|---|---|
| 1 | 食糧・飲料水の備蓄 | 207 | 39.1% |
| 2 | 避難場所、経路の確認 | 60 | 11.3% |
| 3 | お住まいの地区の危険地域（ハザードマップ）の確認 | 36 | 6.8% |
| 4 | 近隣の指定避難所までの避難経路の検討 | 16 | 3.0% |
| 5 | 山都町防災情報メールの登録 | 50 | 9.4% |
| 6 | 風呂に水を溜める | 73 | 13.8% |
| 7 | 家族との連絡方法の確認 | 113 | 21.3% |
| 8 | 家具の固定 | 81 | 15.3% |
| 9 | 家の耐震補強 | 23 | 4.3% |
| 10 | 非常用持出品の準備 | 59 | 11.1% |
| 11 | 地域の自主防災活動や消防団への参加 | 25 | 4.7% |
| 12 | その他 | 19 | 3.6% |
| 13 | 無回答 | 162 | 30.6% |




複数回答のため回答者割合の合計値が100%を超える。（回答者数 530人）

**その他の回答**

・被害がなかったから分からない

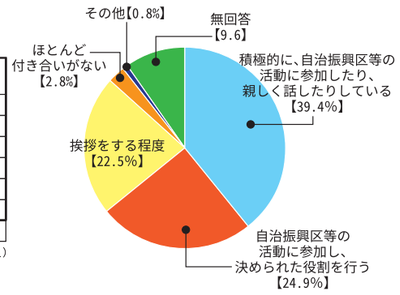
**▶災害への備えとして行っていることは「食糧・飲料水の備蓄」「家族との連絡方法の確認」「非常用持出品の準備」「避難場所、経路の確認」の順となっている**

## 地域や近所での関わりについてお尋ねします。

## 問16 あなたは普段、近所付き合いをどのようにしていますか。（○は１つだけ）

| | 選択肢 | 件数 | 割合 |
|---|---|---|---|
| 1 | 積極的に、自治振興区等の活動に参加したり、親しく話したりしている | 209 | 39.4% |
| 2 | 自治振興区等の活動に参加し、決められた役割を行う | 132 | 24.9% |
| 3 | 挨拶をする程度 | 119 | 22.5% |
| 4 | ほとんど付き合いがない | 15 | 2.8% |
| 5 | その他 | 4 | 0.8% |
| 6 | 無回答 | 51 | 9.6% |
| | 回答数 | 530 | 100% |

（回答者数 530人）




**その他の回答**

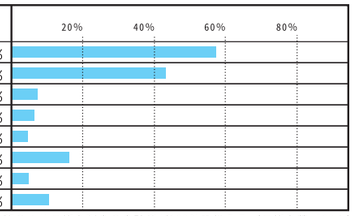
・近所は仕事に行っていて留守が多くてほとんど会わない
・自治振興区等の活動というのがよくわかりませんが近所付き合いはしています
・村行事、組行事の参加の付き合い
・近所付き合いをいつもしている（特別に）

**▶普段の近所付き合いは、6割強の人が、自治振興区等の活動に参加している**



## 問17 あなたは災害時、地域や近所との方と協力して何をしましたか。
（複数回答可）

| | 選択肢 | 件数 | 割合 |
|---|---|---|---|
| 1 | 声かけしたり、されたりした | 305 | 57.5% |
| 2 | 近所の人の安否を確認した | 224 | 42.3% |
| 3 | 近所の人の避難に手を貸した | 37 | 7.0% |
| 4 | 消防団・自主防災組織の活動 | 33 | 6.2% |
| 5 | 避難所の運営に協力した | 22 | 4.2% |
| 6 | 何もしなかった | 84 | 15.8% |
| 7 | その他 | 24 | 4.5% |
| 8 | 無回答 | 54 | 10.2% |




複数回答のため回答者割合の合計値が100%を超える。（回答者数 530人）

**その他の回答**

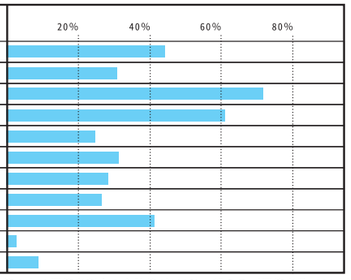
・食糧の配布
・緊急物資を運んだ
・役員会等で検討はした
・建設業災害対策本部駐在
・水道管破裂の対応
・土砂くずれで道が寸断された時、食糧が運ばれたので、みんなで協力して運んで分けて個別に配った
・被災の確認
・飲料水の提供～井戸水を道路まで引いて自由に使用していただいた
・食べ物を料理して、一人暮らしの近所の皆様へ配布した（数回）
・屋根等の修理
・親戚が大きな被災を受けたので、そちらを聞かれた・山都町にいなかった
・近所の水運搬を毎日手伝った
・飲料水の提供
・ボランティアさん達の食事の炊き出し
・南阿蘇へ洗濯機と水タンク・食料を運んだ
・仕事での対応

**▶災害発生時に、近所の人に声かけしたりされたりした人が６割弱、近所の人の安否確認をした人は４割強。4.2%の人は避難所の運営に協力した**

## これからのことについてお尋ねします。

## 問18 今後、避難生活を行う必要が生じた場合に、必要だと思われるものは何ですか。（複数回答可）

| | 選択肢 | 件数 | 割合 |
|---|---|---|---|
| 1 | 指定避難所、福祉避難所情報の周知 | 230 | 43.4% |
| 2 | 要配慮者に対する支援体制の確保 | 160 | 30.2% |
| 3 | 食糧、水等の救援物資の確保 | 380 | 71.7% |
| 4 | トイレ、衛生面の確保 | 324 | 61.1% |
| 5 | 防火・防犯対策 | 129 | 24.3% |
| 6 | 情報通信機器 | 162 | 30.6% |
| 7 | 医師、看護師の手配 | 148 | 27.9% |
| 8 | 電源、空調等の設備 | 138 | 26.0% |
| 9 | 風呂等の入浴設備 | 214 | 40.4% |
| 10 | その他 | 15 | 2.8% |
| 11 | 無回答 | 46 | 8.7% |




複数回答のため回答者割合の合計値が100%を超える。（回答者数 530人）

**その他の回答**

・ペット避難について場所や情報の周知
・バス等の交通移動手段
・プライバシーを確保するための準備
・なるべく人にたよらず、自分で生きたい
・Wi-Fi（スマートフォン、アイフォン）
・もっと避難所をふやしてほしい、なるだけ近くに避難したい
・プライバシーの保護や地域住民と行動を共にすれば何かと心強いと思う
・飲み物は提供されましたが、食事はありませんでした
・生活できる設備（洗濯、衣料、毛布、段ボールベットしきり等
・避難
・防災カードの作成

**▶今後、避難生活を行う必要が生じた場合に、必要だと思われるものは「食糧、水等の救援物資の確保」が７割、「トイレ、衛生面の確保」が６割となっており、このほか「指定避難場所、福祉避難場所情報の周知」も４割強にのぼる**

## 問19 あなたは今後、地域での防災活動として大切だと思うことは何ですか。
（複数回答可）

| | 選択肢 | 件数 | 割合 |
|---|---|---|---|
| 1 | 地域での危険箇所を知らせる地域版防災マップの作成 | 231 | 43.6% |
| 2 | 防災（災害）情報の伝達強化 | 241 | 45.5% |
| 3 | 地域での避難訓練の実施 | 154 | 29.1% |
| 4 | 避難所の運営訓練 | 84 | 15.8% |
| 5 | 炊き出し訓練 | 83 | 15.7% |
| 6 | 地域で高齢者など自力で避難が難しい人を助け合う体制づくり | 320 | 60.4% |
| 7 | 災害の経験を地域で伝承していくこと | 96 | 18.1% |
| 8 | 地域の学校や会社などと一緒になった防災対策の取組み | 96 | 18.1% |
| 10 | その他 | 9 | 1.7% |
| 11 | 無回答 | 51 | 9.6% |

複数回答のため回答者割合の合計値が100%を超える。（回答者数 530人）

**その他の回答**

・避難所運営マニュアルの作成
・行政による速やかな防災工事
・近所との連絡
・行政や自治体にすべて頼ろうとせず、できる人は自分でなんとかしようと試みる事の徹底
・地域に防災活動が何にも生きていない、お願いしたいです、する事により分かる事が大事です
・自治振興区での取り組み。あんな大きな地震があったのに、今だに毛布・水・ラジオなどの備蓄品は何一つ整備されていない施設もある。前回はたまたま道路も通れてインフラもダメージは受けなかったから良かったものの、次に何かあった時の備えを地区でも何かすべきと思うのは私だけでしょうか。

**▶今後、地域での防災活動として大切だと思うことは「地域で高齢者など自力で避難が難しい人を助け合う体制づくり」が最も多く、次いで「防災（災害）情報の伝達強化」「地域での危険場所を知らせる地域版防災マップの作成」が多くなっている**

## 問20 あなたは災害時の地域での共助の取組みが円滑に行われるために、普段どのような取組みが必要だと思いますか。（複数回答可）

| | 選択肢 | 件数 | 割合 |
|---|---|---|---|
| 1 | 地域の祭りなど、住民の顔の見える関係づくり | 269 | 50.8% |
| 2 | 平時における地域内での避難訓練 | 128 | 24.2% |
| 3 | 自主防災組織の重要性や活動内容を伝える研修会の開催 | 103 | 19.4% |
| 4 | 災害の経験を地域で伝承する活動 | 94 | 17.7% |
| 5 | 住民の防災意識の向上を図る活動 | 217 | 40.9% |
| 6 | 行政による自主防災組織の活動支援 | 139 | 26.2% |
| 7 | その他 | 11 | 2.1% |
| 8 | 無回答 | 57 | 10.8% |

複数回答のため回答者割合の合計値が100%を超える。（回答者数 530人）

**その他の回答**

・伝達の情報交換
・普段の生活がカツカツだと非常時に対応できない
・自主防災組織が現にあります
・防災無線の有意義な活用
・地域の方の意識のなさ、自分の所は大丈夫だと思っている人、役員だけではむずかしい（まかされてしまいます）
・原子力災害への対応を準備すること
・月に２ー３回は全員参加の行事が有ること
・住民数も減り、助け合い見守り合いは全員がやっている

**▶災害時の地域での共助の取組みが円滑に行われるために普段から必要と思われる取り組みは、「地域の祭りなど、住民の顔の見える関係づくり」「住民の防災意識の向上を図る活動」「行政による自主防災組織の活動支援」の順**

## 問21 命や財産を守るため、あなたは県や町の行政に対して、どのような取組みを望まれますか。重視して進めるべきだと考えるものを３つ選んで下さい。

| | 選択肢 | 件数 | 割合 |
|---|---|---|---|
| 1 | 消防団や自主防災組織等の育成強化 | 217 | 40.9% |
| 2 | 災害が発生したときの対処方法を学ぶ定期的な訓練 | 186 | 35.1% |
| 3 | 災害が発生したときの避難場所や避難経路がわかる地図等の情報提供 | 234 | 44.2% |
| 4 | 雨量や河川の水位など危険を知らせてくれる情報 | 289 | 54.5% |
| 5 | 学校等での防災教育 | 89 | 16.8% |
| 6 | 避難道路や避難拠点施設などの整備 | 237 | 44.7% |
| 7 | その他 | 14 | 2.6% |
| 8 | 無回答 | 41 | 7.7% |

複数回答のため回答者割合の合計値が100%を超える。（回答者数 530人）

**その他の回答**

・生活の質の向上
・早急な河川改修、危険箇所、土留壁設置
・人員増、不足している
・地域の実態に立った事前の整備を自主防災が消防団に有ります
・洪水対策
・備蓄、配慮を要する人のホテル避難
・早めの情報提供
・若い人が少ない地域での防災は無理か、自分の所だけ関心がうすい
・大雨警報が出されても防災無線は鳴らない。議会の内容を流すより防災情報を流すべきでは？
・道が危険で孤立するし、町まで１０ｋｍかぎりなく不安
・食料、水の早期の対応

**▶命や財産を守るため行政の取組みで望むことは、「雨量や水位などの危険を知らせてくれる情報」が最も多く、次いで「避難道路や避難拠点施設などの整備」「災害が発生した時の避難場所や避難経路がわかる地図等の情報提供」の順**

## 問22 今後の復旧・復興に向けて、重視すべき視点を３つ選んで下さい。

| | 選択肢 | 件数 | 割合 |
|---|---|---|---|
| 1 | 安全・安心を確保する復興 | 304 | 57.4% |
| 2 | 高齢者の生きがい・健康づくりを重視した復興 | 137 | 25.8% |
| 3 | 若い世代が町に戻り、住み続けたくなる環境を創出する復興 | 350 | 66.0% |
| 4 | 国・県・周辺市町村と連携した復興 | 152 | 28.7% |
| 5 | 事業実施における無駄を省いた効果的・効率的な復興 | 154 | 29.1% |
| 6 | 近所付き合い・地域コミュニティを大切にした復興 | 217 | 40.9% |
| 7 | 美しい景観や、町のよさを取り戻す復興 | 84 | 15.8% |
| 8 | その他 | 7 | 1.3% |
| 9 | 無回答 | 27 | 5.1% |

複数回答のため回答者割合の合計値が100%を超える。（回答者数 530人）

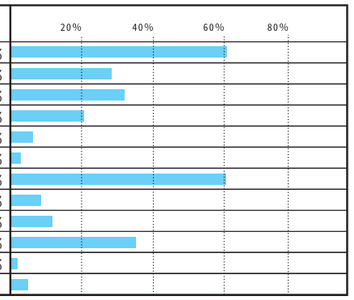
**その他の回答**

・働きざかりの子育て家族、子育て世代を支援する→住み続けたいと思う
・災害時に受けた支援とその後被災された地域に還元していくべき
・災害対応人員の増
・災害時、通行路の多岐確保
・地域の意見
・次世代の為のインフラ整備

**▶今後の復旧・復興に向けて重視すべき点は、「若い世代が町に残り、住み続けたくなる環境を創出する復興」「安全・安心を確保する復興」「近所付き合い・地域コミュニティを大切にした復興」などの回答が多かった**

## 問23 今後の復旧・復興に向けて、必要と思われる施策を３つ選んで下さい。

| | 選択肢 | 件数 | 割合 |
|---|---|---|---|
| 1 | 生活道路や水道等の基礎的なインフラの復旧・整備 | 322 | 60.8% |
| 2 | 住まいの確保（自宅の再建、公営住宅の建設等） | 150 | 28.3% |
| 3 | 医療・福祉の復旧・充実 | 169 | 31.9% |
| 4 | 農林業の復旧・振興 | 108 | 20.4% |
| 5 | 商業・サービス業の復旧・振興 | 32 | 6.0% |
| 6 | 製造業の復旧・振興 | 14 | 2.6% |
| 7 | 若い世代の雇用を確保できる新たな産業の創出や企業誘致 | 321 | 60.6% |
| 8 | 学校教育環境の復旧・充実 | 44 | 8.3% |
| 9 | 社会教育・生涯学習・健康づくり環境の復旧・充実 | 61 | 11.5% |
| 10 | 災害に強い交通網の形成 | 186 | 35.1% |
| 11 | その他 | 9 | 1.7% |
| 12 | 無回答 | 25 | 4.7% |




複数回答のため回答者割合の合計値が100%を超える。（回答者数 530人）

**その他の回答**

・ボランティアや自主的な災害支援への参加を促すために休日取得や賃金水準の向上
・自宅廻り砂防ダム治山対策等、河川増水時、床下浸水しない川幅、高さを満足する河川改修
・町職員の増
・都市部と代わりのないテレビ・ラジオの受信状態であったり、インターネットを容易に利用できる環境
・地域の責任者等（区長、組長）が個別に点呼等の措置を取ること
・高齢者の健康寿命を延ばし働ける環境

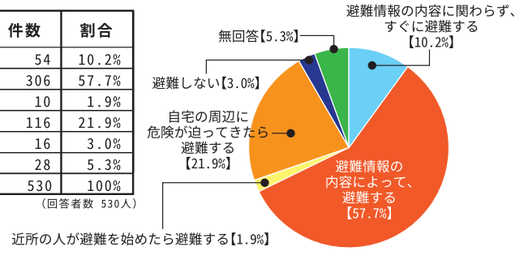
**▶今後の復旧・復興に向けて必要と思われる施策は、「生活道路や水道等の基礎的なインフラの復旧・整備」「若い世代の雇用を確保できる新たな産業の創出や企業誘致」の２つが要望が多く「災害に強い交通網の形成」「医療福祉の復旧、充実」などが続く**

# 災害に対する考えをお尋ねします。

## 問24 災害の危険性が高くなり、町から避難情報が出された場合、あなたはどのような行動をとると思われますか。この中からあなたの考えに最も近いもの１つを選んで下さい。

| | 選択肢 | 件数 | 割合 |
|---|---|---|---|
| 1 | 避難情報の内容に関わらず、すぐに避難する | 54 | 10.2% |
| 2 | 避難情報の内容によって、避難する | 306 | 57.7% |
| 3 | 近所の人が避難を始めたら避難する | 10 | 1.9% |
| 4 | 自宅の周辺に危険が迫ってきたら避難する | 116 | 21.9% |
| 5 | 避難しない | 16 | 3.0% |
| 6 | 無回答 | 28 | 5.3% |
| | 回答数 | 530 | 100% |

（回答者数 530人）




**その他の回答**

・避難出来ない

**▶町から避難情報が出された時、「避難情報の内容に関わらず、すぐに避難する」と答えた人は10.2%で、57.7%の人は「避難情報の内容によって、避難避難する」と回答、「自宅の周辺に危険が迫ってきたら避難する」と答えた人が21.9%だった**

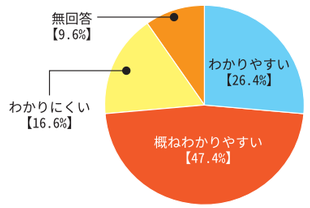
# その他、数点お尋ねします。

## 問25 町が発信する防災情報についてどう感じますか。

（○は１つだけ）

| | 選択肢 | 件数 | 割合 |
|---|---|---|---|
| 1 | わかりやすい | 140 | 26.4% |
| 2 | 概ねわかりやすい | 251 | 47.4% |
| 3 | わかりにくい | 88 | 16.6% |
| 4 | 無回答 | 51 | 9.6% |
| | 回答数 | 530 | 100% |

（回答者数 530人）




**その他の回答**

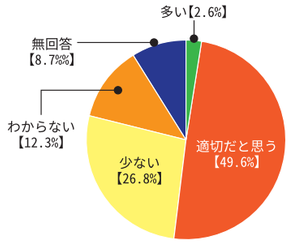
・山都町は広域なので地名を言われてもわからない、メールに地図を添付してほしい
・防災無線未対応
・震災後、避難勧告がすぐ出る様になったと思っている

## 問26 町が発信する防災情報の配信量・回数についてどう思いますか。

（○は１つだけ）

| | 選択肢 | 件数 | 割合 |
|---|---|---|---|
| 1 | 多い | 14 | 2.6% |
| 2 | 適切だと思う | 263 | 49.6% |
| 3 | 少ない | 142 | 26.8% |
| 4 | わからない | 65 | 12.3% |
| 5 | 無回答 | 46 | 8.7% |
| | 回答数 | 530 | 100% |

（回答者数 530人）



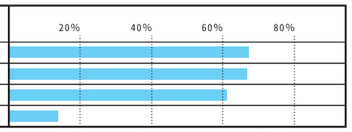

**その他の回答**

・必要な時に必要なだけお願いしたい
・２回必ず繰り返してほしい、ゆっくり話してほしい

**▶町が発信する防災情報について８割弱の人が「わかりやすい」「概ねわかりやすい」と回答しており、情報の配信量は５割弱の人は適切と感じているが３割弱の人は「少ない」と感じている**

## 問27 災害発生が予測されるとき、町が発令する次の情報の意味を理解していますか。（複数回答可）

| | 選択肢 | 件数 | 割合 |
|---|---|---|---|
| 1 | 避難準備・高齢者等避難開始 | 354 | 66.8% |
| 2 | 避難勧告 | 352 | 66.4% |
| 3 | 避難指示（緊急） | 322 | 60.8% |
| 4 | 無回答 | 72 | 13.6% |

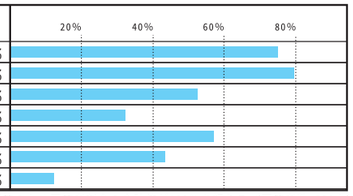



複数回答のため回答者割合の合計値が100%を超える。（回答者数 530人）

**▶町が発令する情報を意味を正しく理解している人は６～７割にとどまっている**

## 問28 あなたは気象や防災に関する次の情報の意味を理解していますか。
（複数回答可）

| | 選択肢 | 件数 | 割合 |
|---|---|---|---|
| 1 | 土砂災害警戒情報 | 397 | 74.9% |
| 2 | 気象（大雨等）特別警報 | 421 | 79.4% |
| 3 | 竜巻注意報 | 277 | 52.3% |
| 4 | 浸水想定区域 | 170 | 32.1% |
| 5 | 土砂災害警戒区域 | 301 | 56.8% |
| 6 | 急傾斜地崩壊危険区域 | 229 | 43.2% |
| 7 | 無回答 | 63 | 11.9% |



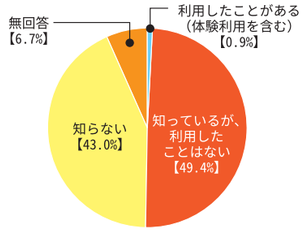

複数回答のため回答者割合の合計値が100%を超える。（回答者数 530人）

**▶気象や防災に関する情報の意味の理解では、気象（大雨等）特別警報、土砂災害警戒情報については８割弱の人が理解しているが、浸水想定地域や急傾斜地崩壊危険区域に関して情報を理解している人は半数以下**

## 問29 あなたは大地震等が発生した場合に利用できる、自分自身の無事を伝え、家族の安否を確認するための「災害用ダイヤル（171）及び災害用伝言板（Web171）」を知っていますか。

| | 選択肢 | 件数 | 割合 |
|---|---|---|---|
| 1 | 利用したことがある（体験利用を含む） | 5 | 0.9% |
| 2 | 知っているが、利用したことはない | 262 | 49.4% |
| 3 | 知らない | 228 | 43.0% |
| 4 | 無回答 | 35 | 6.7% |
| | 回答数 | 530 | 100% |

（回答者数 530人）

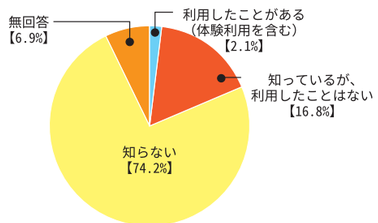



**その他の回答**
・テレビで聞いたことはある

## 問30 あなたは大地震等が発生した場合に通信契約の有無によらず、誰でも無料でＷｉ-Ｆｉを利用することができる「ファイブゼロジャパン」を知っていますか。

| | 選択肢 | 件数 | 割合 |
|---|---|---|---|
| 1 | 利用したことがある（体験利用を含む） | 11 | 2.1% |
| 2 | 知っているが、利用したことはない | 89 | 16.8% |
| 3 | 知らない | 393 | 74.2% |
| 4 | 無回答 | 37 | 6.9% |
| | 回答数 | 530 | 100% |

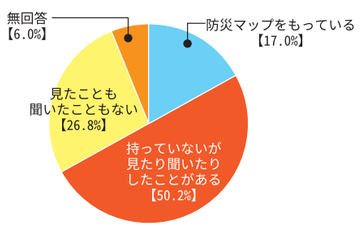
（回答者数 530人）




## 問31 急傾斜地や浸水等が予想される区域を示すものとして、防災マップがありますが、このような地図を見たり、聞いたりしたことはありますか。

| | 選択肢 | 件数 | 割合 |
|---|---|---|---|
| 1 | 防災マップをもっている | 90 | 17.0% |
| 2 | 持っていないが見たり聞いたりしたことがある | 266 | 50.2% |
| 3 | 見たことも聞いたこともない | 142 | 26.8% |
| 4 | 無回答 | 32 | 6.0% |
| | 回答数 | 530 | 100% |

（回答者数 530人）




**その他の回答**
・見ていない
・わからない

**▶災害用伝言ダイヤル・災害用伝言板を知っている人は約半数、災害時に誰でも無料でWI-FIが利用できる「ファイブゼロジャパン」は74%の人が知らないと回答している。防災マップについての知識は70%近くの人がもっているが、実際に持っている人は17%となっている**



# 資　料